

アンケート実施の方向性（障がい児）

1 第2期障がい児福祉計画策定時のアンケートにおける課題

(1) アンケート対象者

通所受給者を持つ18歳未満から計300人を抽出

⇒ 児童通所サービス利用者のみでのアンケートとなり、サービスを利用していない手帳保持者の声が反映されなかった。

(2) アンケート内容

就学前に限定している質問が多く、結果的に就学前に焦点があっていた。

⇒ 療育・発達支援について就学前のみでのアンケートとなり就学後におけるニーズの把握などが出来ていなかった。

2 第3期障がい福祉計画策定におけるアンケートの方向性（案）

(1) アンケート対象者

ア 通所給付決定者から抽出すると、通所サービスを利用していない場合が多い視覚障がい児及び聴覚障がい児がアンケート対象外になってしまう可能性があるため、両障がいについては別途抽出対象とする。

イ 難病患者は人数が少ないため別途抽出対象とする。

(2) アンケート内容

主に療育・発達支援についての項目で就学前に限定していた回答者に就学後も加えることをはじめ、設問に対する回答世代の限定を取り除き、全世代からのアンケート回答を計画に反映することが可能。